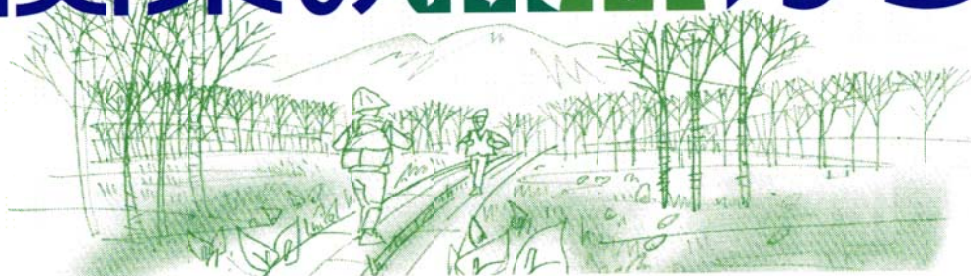


平成23年4月1日

第85号

# 関東の森林から



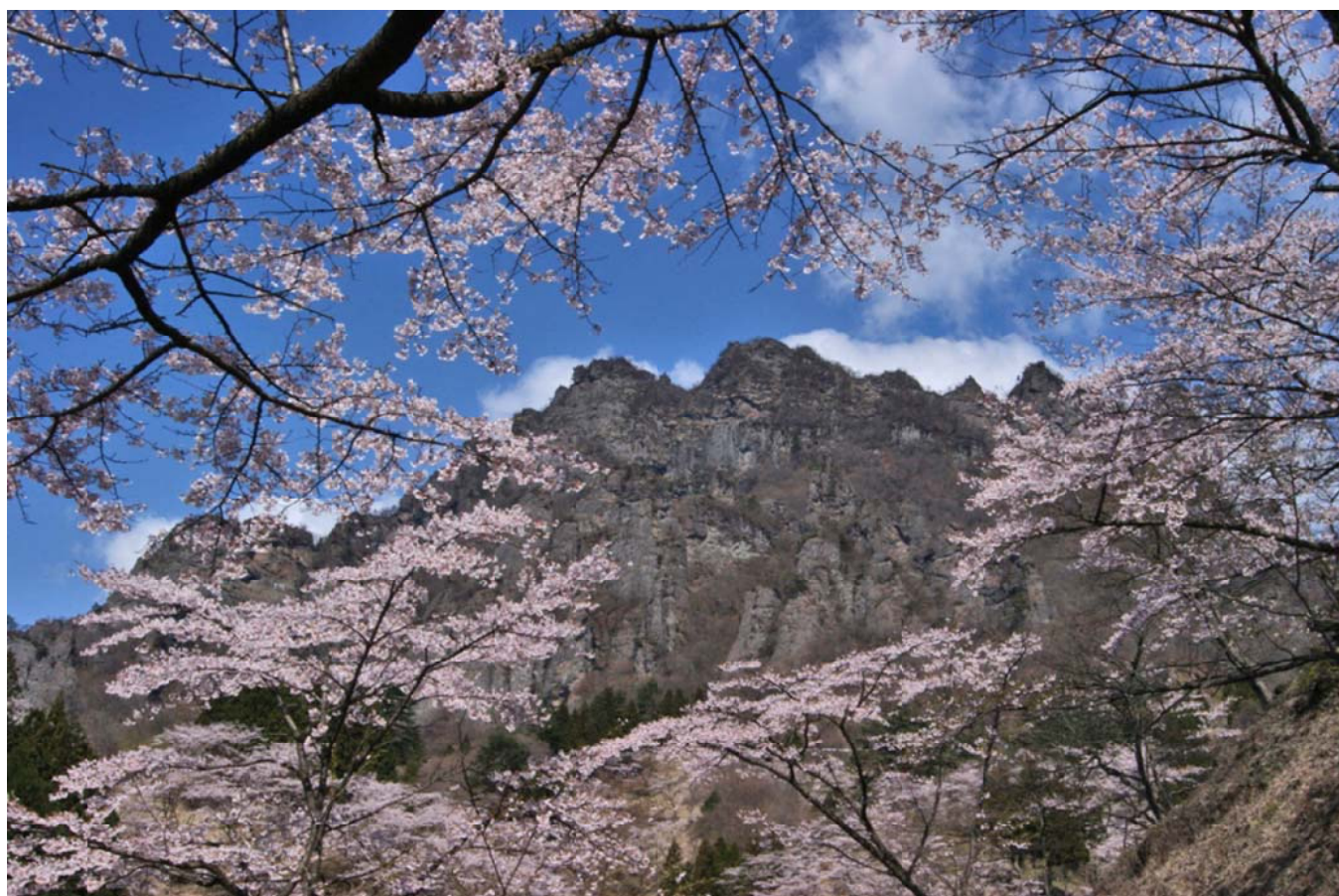
国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



さくらの里から妙義山（金洞山）を望む（群馬県下仁田町）

（撮影者：関東森林管理局 下平 善文）

## 平成23年度関東森林管理局の業務運営について

企画調整室長

## 私と国有林 「天城の森を持続可能なものに」

伊豆市立天城中学校 校長 大塚 明氏



2011・国際森林年





福島県相馬市の松川浦海岸保安林の立木が消失  
(面積56ヘクタール、主要樹種クロマツ)

謹んで地震災害の  
お見舞いを申し上げます

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、被害を受けられました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

関東森林管理局管内も、福島県相馬市の海岸林や磐城森林管理署等が被害を受けました。

災害発生後、直ちに災害対策本部を設置し、管内の被害状況の調査をするとともに、各県・市町村等の災害対策本部と連携を取り、災害復興支援活動や被災した森林管理署等の機能回復に向けた取組を実施しています。

## 「民有林・国有林が連携した森林・林業の再生」 平成23年度関東森林管理局の業務運営について

企画調整室長 氷見 章

関東森林管理局では、平成21年12

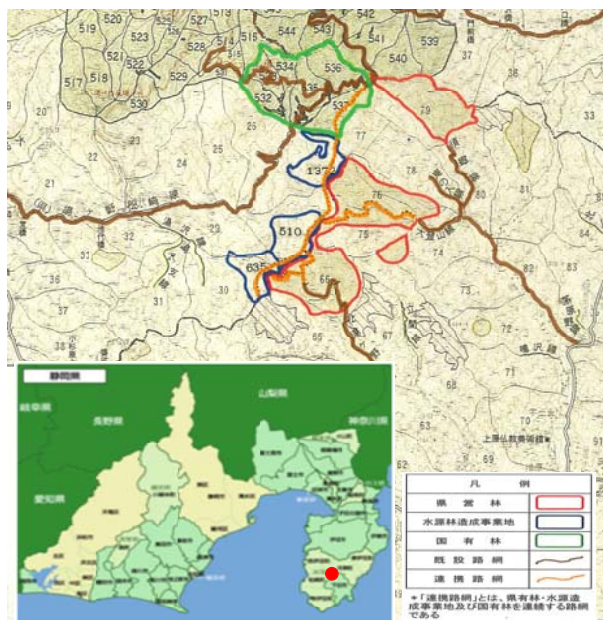
月に農林水産省が公表した「森林・林業再生プラン」及び昨年11月末に森林・林業再生プラン推進本部で了承された「森林・林業の再生に向けた改革の姿」(最終取りまとめ)を踏まえ、搬出間伐・路網整備の加速化、森林共同施業団地の設定など民有林との連携の推進、国産材の安定供給体制の構築と木材利用の拡大などに率先して取り組みます。

また、今年夏に世界自然遺産登録を目指す小笠原諸島における固有森林生態系保全活動、昨年度に地元地域・自然保護団体・国の3者協働で「赤谷の森管理経営計画」を策定した赤谷プロジェクトなど、生物多様性保全に向け継続して取り組みます。平成23年度から新たに、「准フォレスト」による民有林行政の支援人材育成のための研修フィールド・技術の提供にも取り組むとともに、今年は国際森林年であることから、「森へ行こう」をテーマに開かれた「国民の森林」の実現に努めます。

### 民有林・国有林が連携した取組の推進

● 国有林野事業に対する地域ニーズを的確に把握するとともに、流域森林・林業活性化協議会等に対して国の施策の紹介、民有林・国有林が連携した取組の提案、各都県の流域管理担当者との意見交換を行うなど積極的な対応に努めます。

● 第4次流域管理推進アクションプログラムの着実な実施を通じ、



静岡県内に設定された森林共同施業団地

● 国の森林・林業施策の紹介、民有林・国有林が連携した取組を着実に推進します。

● 森林・林業の再生に向けた関東森林管理局の取組として、平成22年度に設定した静岡県内、福島県内に続き、他地域での森林共同施業団地の設定等地方公共団体等との森林整備協定の締結に向けた取組を積極的に推進し、民有林・国有林一体となった路網整備や間伐の促進等に取り組めます。

### 森林施業の低コスト化と木材の安定供給

● 民有林と連携し、路網の作設技術の普及・定着に取り組むとともに、路網と列状間伐及び高性能林業機械を組み合わせた、低コストで高効率な作業システムの普及・定着の推進、植え付け作業効率が高いコンテナ苗を用いた低コスト造林の実践・実証に取り組めます。

● 林産物の供給については、民有林・国有林連携による木材の安定供給体制の構築や、木材の需要動向に応じた計画的な生産・販売を推進します。

● 間伐材等の安定供給と利用拡大を図るため、システム販売による大





生物多様性保全の取組を紹介

口需要者への安定的な供給や、低質材や林地残材のバイオマス原料、石炭火力発電所での混合利用など、新たな需要先への販売に取り組みます。

### 公益的機能の維持増進に向けた取組

公益的機能の発揮が要請される森林については、機能区分に応じた森林施業を計画的かつ効率的に実施します。また、多様で健全な森林の整備・保全による生物多様性保全の取組を推進するとともに、地域住民の意見を十分に反映させるため、計画案策定前の意見聴取等の実施や持続可能な森林経営の取組目標を内容とするなど地域管理経営計画の充実に取り組みます。特に、赤谷プロジェクトについては、生物多様性保全と持続可能

な地域づくりを目指し、平成22年度に関係者と協働で策定した「赤谷の森管理経営計画」に基づき取り組みます。

● 松くい虫被害、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害、シカ等による食害や剥皮被害に対しては、公益的機能への影響を踏まえ、地方公共団体等との連携を図りつつ、地域の実情に応じた被害対策に積極的に取り組みます。

● 国民が安心して暮らせる社会の実現に向けて、計画的かつ効率的に治山事業を実施します。

### 生物多様性の保全

● 原生的な森林生態系や貴重な野生動植物が生息・生育する森林については、モニタリング調査を通じて保全・管理を推進します。

● 野生鳥獣との共生を可能とする地域づくりに取り組むため、地方公共団体、NPO等と連携し、シカの食害やクマの剥皮被害対策、林業と生物多様性保全の両立を図るオオタカモデル森林でのモニタリング等の取組を積極的に進めます。

● 島嶼生態系として独自の進化を遂げ、固有の森林生態系を有する小笠原諸島の保全・管理については、小笠原諸島森林生態系保全センターを核として、外来種対策の強化等に取り組みます。

### 国民の森林としての管理経営

● 国有林の管理経営状況等について国民に分かりやすく伝えるため、イベントや各種媒体を通じたPRに努めます。また、本年が国連が定める「国際森林年」であることを踏まえ、国際森林年のテーマ「森を歩く」に合わせた情報提供にも努めます。

● ボランティア団体・企業等による自主的な森林整備を支援する「ふれあいの森」「社会貢献の森」「遊々の森」等の協定締結による国民参加の森林づくりの取組を推進します。

● 地域における産業振興、住民の福祉の向上に寄与するため、国有林の貸付や売払い、レクリエーションの森の整備、活用に取り組みます。

### 森林・林業再生に向けた人材育成

● 准フォレストスターや林業専用道技術者等の育成に当たって、国有林のフィールド・技術力の提供を行うとともに、国有林職員から准フォレストスターを選定し民有林行政を支援します。

● 大規模な山地災害時に適切に対応できる能力や、林業専用道作設など民有林への施業の低コスト化の普及等において指導的役割を果たす能力を有する専門技術者の育成に努めます。

### 地球温暖化防止対策の推進



低コスト路網

● 森林吸収目標1300万炭素トンの達成に向けて、吸収源としてカウントできる森林を効率的かつ確実に増やすために、森林整備事業や保安林整備事業による間伐等の着実な実施に努めます。

● 「持続可能な経営から生産された合法的木材」の利用推進、森林土木工事への間伐材等の利用を推進し、これらを通じて国民に対する木材利用の積極的な啓発に努めます。

### 国有林野の維持及び保存

● 国有林野を適切に保全・管理するため、森林の巡視、病虫害の防除を積極的に実施します。

● 世界遺産一覧表への記載を目指す「小笠原諸島」における外来種対策や暫定リストに記載されている「富士山」等の景観保全の対策を促進し、これらの取組の積極的なPRに努めます。



# 赤谷の森から

## 赤谷プロジェクトの軌跡

### 第1回（プロジェクトの発足）



「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」、通称「赤谷プロジェクト」は、平成16年、群馬県みなかみ町（旧新治村）に位置する約1万畝の国有林を対象として、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目標に掲げ、関東森林管理局、(財)日本自然保護協会、地域住民が組織する赤谷プロジェクト地域協議会の三者協働で発足しました。

## 生物多様性の復元と持続的な地域づくり

赤谷地域では、開発による経済効果を期待して、スキー場とダムの開発計画がありました。赤谷プロジェクト地域協議会の前身である「新治村の自然を守る会」と日本自然保護協会などの活動により、イヌワシやクマタカといった希少猛禽類の生息が確認されたこともあり、結果としてこれらの計画が中止となるという経過がありました。プロジェクト発足のきっかけの一つともなったこのことは、豊かな自然環境を地域全体が「利益・財産」として捉え、地域の率先した理解と協力を得ることが、自然環境を持続的に維持する上で最も重要であることを示す結果となりました。

## 協働三者のプロジェクトへの期待

関東森林管理局では、木材生産と山地災害の防止を主に取り組んできた長い歴史の中で、職員一人ひとりが現場を見て判断し、経験と技術力で課題を解決してきました。近年、森林に対する国民のニーズが多様化し多面的機能の発揮が求められている中、特に、生物多様性の保全に関する実践的な経験、知識の蓄積が課題となっています。

日本自然保護協会においては、自然保護を図ってきた中で、その時その地域の自然を守る種「点」で守ることができても、持続的、面的な保護に繋がらないといった課題がありました。

自然保護の考え方も時代の移り変わ

りとともに、「開発から貴重な自然を守る」といった観点から、「人間と自然の上手なつきあい方を模索すること」といった様に変化してきています。

赤谷プロジェクト地域協議会においては、地域の過疎化・高齢化への進展及び対応が課題の一つとなっていました。赤谷の森があるみなかみ町は、昨年4月に過疎指定を受けました。

残された自然を活かした新しい地域振興策（エコツーリズム等）や顕在化する野生鳥獣被害のブレイク、環境教育の受け皿として期待をしています。

それぞれの立場で課題を解決するために、赤谷プロジェクトがスタートしたものです。

第2回目は、赤谷プロジェクトの具体的な仕組みについてご紹介します。



赤谷プロジェクトエリア遠望

## 森林は友達！

### 作文コンクール 東京事務所



3月8日、都内のホテルにおいて「第14回森林は友達！作文コンクール」の表彰式が行われました。

この作文コンクールは、旧東京分局管内（茨城県から静岡県までの1都6県）の森林管理署、森林管理事務所、高尾森林センター等が行った「森林教室・体験林業」に参加した小学4～6年生を対象に、感じたことを作文にすることによって、森林・



最優秀賞(林野庁長官賞)授与

林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的に、関東森林管理局東京事務所と(財)東京林業土木協会が共催で、毎年度行っているもので、今回は、23団体(小学校22校、団体1)から1,483名の応募がありました。

今回の作品は、昨年が「国際生物多様性年」であり、生物多様性保全の重要性がクローズアップされたことから森林と生物の関係を取り上げた優れた作品が見られました。その中で、「雑木林の生態系」と題して森林の生態系について土壌生物がどのようにかわっているのかについて書いた多摩市立連光寺小学校5年生の宮田陵さんが最優秀賞を受賞しました。

今年の作文コンクールは、国際森林年記念として行うこととしています。この作文コンクールをきっかけに、次代を担う子どもたちが、森林や林業が、いかに重要なものであるか考える場となることを期待しています。

## 幹部の紹介

4月1日付け( )は前職

### 関東森林管理局課長等

▽総務部総務課長 岩佐 利昭

(森林整備部森林整備課長)

▽総務部経理課長 川村 一憲

(総務部専門官)

▽計画部国有林野管理課長 合田 裕志

(企画調整室監査官)

▽森林整備部森林整備課長 樋口 一雄

(森林整備部販売課長)

▽森林整備部販売課長 川野邊達也

(群馬森林管理署次長)

### 森林管理署長等

▽会津森林管理署 中島 朝長

南会津支署長

(福島県古殿町産業振興課主幹)

▽日光森林管理署長 澤山 秀尚

(林野庁国有林野部経営企画課企画官)

▽下越森林管理署 森内 賀久

村上支署長

(総務部専門官)

▽埼玉森林管理事務所長 原田 正明

(計画部自然遺産保全調整官)

▽山梨森林管理事務所長 有山 隆史

(林野庁国有林野部経営企画課経営計画官)

## 新規採用者の紹介

4月7日(木)各森林管理署等へ配属された新規採用者等5名が一堂に会し、新規採用研修の開講式が行われました。

研修を終えて、それぞれ所属先で職業人としてスタートします。

先輩の皆さんよろしく願いします。

### 新規採用Ⅱ種(写真右から)

群馬森林管理署 田中 弘範

(平成23年2月採用)

高尾森林センター 小林 司

(平成23年2月採用)

福島森林管理署 吉田 恵

東京神奈川森林管理署 羽田野拓也

### 新規採用Ⅲ種(写真左)

福島森林管理署

白河支署 茂木 翔郁





# 私と国有林

## 天城の森を持続可能なものに

伊豆市立天城中学校 校長 大塚 明

本校は、伊豆半島の中央部に位置する天城山周辺の農山村地帯で、観光や農業に従事している家庭も多い所です。しかし、不景気や少子高齢化の影響を受け、地域に元気がない状況にあります。そんな天城に住む中学生は、地域に誇りがもてずに自信をなくしている生徒もいます。また、体験不足から、自然に恵まれたすばらしい地域であることを十分認識していないのが現状です。

そのような中学生に、天城の自然に触れ、地域での様々な直接体験を通して誇りと自信を取り戻してほしいと願って、総合的な学習を『持続発展教育（ESD）』の視点で見直し、「天城学習」をスタートしました。



天城の森を学習



「森のはたらき」を聞く生徒たち

スタートに当たって、まず教える我々教員が天城について学ばなければならぬということ、4月早々、天城自然ガイドクラブの方の案内で天城縦走を実施しました。この体験を通して、私たちは天城の自然のすばらしさと共に、笹が枯れマメ桜が枯死し、ブナの若木が育っていないという天城の自然が持続不可能になりつつある現実を知りました。

「天城学習」を実施するに当たって、意図的に仕組んだことは、地域での直接体験を重視したこと、地域の人とのつながりを重視したこと、です。また、「天城学習」だけでは

補えない知識や考え方を各教科・道徳・特別活動で意図的に学べるようにするために、独自のカリキュラムを作ることになりました。世界規模で起きている環境問題が、天城山での様々な環境破壊とつながっていることを理解し、自分たちが住んでいる天城を「持続可能な社会」にしていくために自分たちに何ができるか考え、行動できる生徒を育てたいと考えています。

「天城学習」では、1年生が福祉体験と天城登山（八丁池から皮子平）、2年生が天城登山（万二郎・万三郎）と職場体験、3年生が修学旅行と地域学習となっています。天城登山では、事前学習として環境カウンセラーや森林管理署の方の講話を聴き、当日は森林管理署の職員と自然ガイドクラブの方にガイドをお願いしました。この体験を通して天城の森に関心を深め、職場体験に伊豆森林管理



天城縦走終了！



森林管理署で職場体験

署を選んだ生徒もいます。生徒は、天城山のクマザサが壊滅し、ブナやマメ桜が枯れ始めている現状を知り、何とかしなければという課題意識が芽生えています。また、ブナやマメ桜の枯損の原因の一つが鹿の食害であることを知り、鹿を何とかしなければという意識も生まれています。これからの課題は、生徒が抱いた課題意識をどのような具体的行動に導いていくかということです。現在、森林管理署の方と生徒ができるブナ林の保護や育成等の活動の可能性を探っています。

生徒の発想から、ふるさと天城の森を守り、自然を持続可能なものにするための活動にまで発展させたいと願っています。生徒と共に天城の森を守り、豊かな恵みをもたらす狩野川や伊豆の海を育てるために活動を続けていきたいと考えています。



# 森づくり最前線

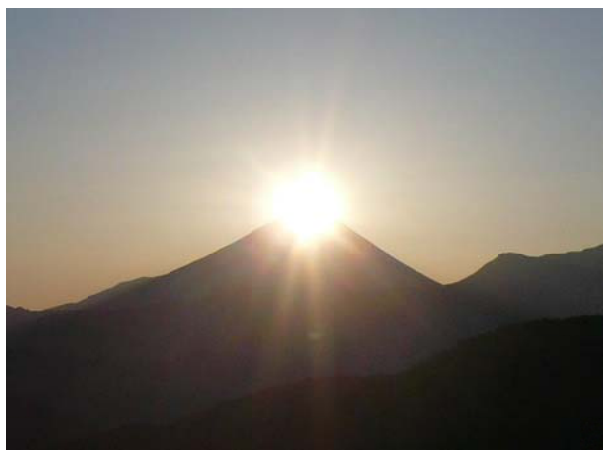
山梨森林管理事務所 南部森林事務所 森林官 田口 哲也



長者ヶ岳から富士山を望む

私の勤務する南部森林事務所は、山梨県の南西部に位置する南部町に所在し、南部町の国有林2,039畝・官行造林地184畝、身延町の国有林306畝、早川町の官行造林地147畝を管理しています。

南部町内の国有林は静岡県境に位置し、東海自然遊歩道が通っています。ルート上には山梨百名山の長者ヶ岳（標高1,336㍎）があり、山頂からは富士山を望むことができます。天候に恵まれれば、4月と8月の数日間はダイヤモンド富士（朝方、富士山頂より太陽が昇る現象）を見ることができ、気候の良いシーズンにはハイキングを楽しむ観光客が訪れます。



ダイヤモンド富士

近年、当事務所管内では、植栽木へのクマによる剥皮やシカの食害による獣害が後を絶ちません。特にクマの剥皮は成長期にある30～40年生、さらに伐期齢を迎えた林分までもが被害を受けています。被害の大部分が比較的大きな優良木であり、分収育林箇所も例外ではありませんでした。

分収育林箇所については、平成20年度から被害の拡大を防ぐため、剥皮被害防止用テープを巻くなどの対策を実施し、22年度には全箇所完了することができました。また、被害状況を把握するための調査を実施しており、被害の傾向を分析して効果的な対策に繋げていくこととしています。

平成21年12月に策定された「森林・林業再生プラン」では、森林の整備や木材生産の効率化を図るため、低コストで壊れにくい森林作業道の整備などを進めていくこととしています。

山梨森林管理事務所では、昨年12月に当事務所管内において、山梨県、町、林業事業体等が参加の下、森林作業道作設の現地検討会を行い、急傾斜地でのルート選定やバックホウによる森林作業道の作設方法などについて学びました。

低コストで壊れにくい森林作業道の整備を積極的に進めていくためには、地形や地質を考慮して無理な搬出方法とならないよう配慮することが重要であることを再認識することができました。

最後になりましたが、諸先輩方から受け継いだ国有林の森林資源をより充実して100年、200年後ま引き継いでいけるよう、獣害対策や効率的な森林作業道の活用を含めた適切な森林整備に日々取り組んでいきたいと思ひます。



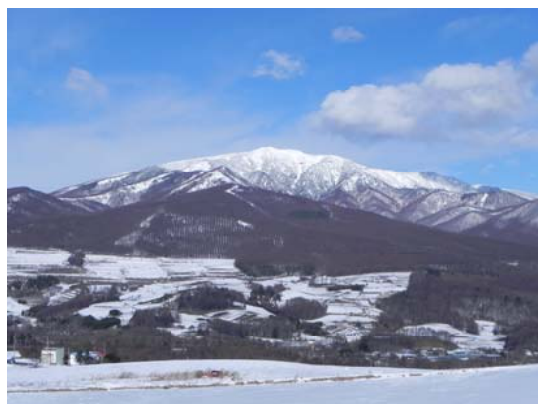
剥皮被害防止用テープ巻き



森林作業道作設の現地検討会



# 管内の百名山 「四阿山」



四阿山の山容



石的岩

四阿山（標高2,354㍎）は、群馬県北西の嬭恋村と長野県上田市・須坂市との県境に位置し、壮大な裾野を持つ山です。その、ゆったりと裾野を広げた様子が屋根の形に見えることから「あずまや<sup>あがつまやま</sup>」の名がついたといわれており、嬭恋村では吾妻山とも呼ばれています。

また、古くから信仰の山として知られており、山頂には2祠の境界神（東側に上州祠、西側に信州祠）が祀られ、この中央の南北方向が上信国境となっています。

四阿山の中腹には、「<sup>まといわ</sup>石的岩」と呼ばれる奇岩があり、登山者を出迎えてくれます。その形状は、長さ約200㍎、高さ20㍎、厚さは2～3㍎と薄く、巨大な屏風を思わせるものがあり、その構造や火山地質学的にも非常に貴重なことから、昭和15年に国指定天然記念物に指定されました。また、石的岩には、建久年間、浅間野に狩にきた源頼朝が、この珍しい岩を的にして矢を射られたという「石的岩伝説」もあります。

四阿山は裾野が広く高原野菜の栽培が盛んで、嬭恋村のキャベツ、菅平高原のレタスが有名です。また、嬭恋村から上田市に通じる国道144号線の県境、鳥居峠は、太平洋と日本海とを分ける中央分水嶺となっています。

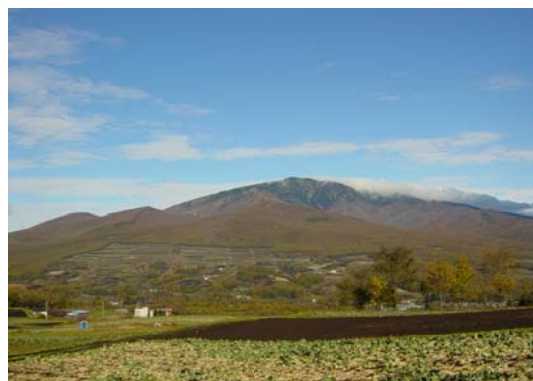
四阿山の南面には、標高1,300㍎付近までの広大な畑を境に、山頂に向かって、先達が植林してきた広大なカラマツ林があり、紅葉の時期には一面黄金に染まります。

北東には野外スポーツ施設としてバラギスポーツ林が設定され、スキー場が整備されゴンドラを利用して四阿山への登山ルートにもなっています。

山頂へは、その形状からいくつものルートがあり、群馬県鳥居峠からの登山ルートや長野県菅平高原からの登山ルートは約4時間30分で頂上に立つことができます。山頂からは、360度の展望が楽しめることから四季を通じて多くの登山者が訪れています。

吾妻森林管理署は、広大なカラマツ林との調和を考慮した施業を行い、皆さんに親しまれる四阿山を目指して、管理していきたいと考えています。

（吾妻森林管理署 広報広聴連絡官）



キャベツ畑と四阿山



鹿沢ゆり園からの四阿山

編集所 関東森林管理局  
FAX (027) 210-1159  
TEL (027) 210-1158  
総務課